

平成30年度 第2回 豊岡市子ども・子育て会議 議事（要約版）

日時	平成30年11月7日（水） 13時30分～15時30分		
場所	豊岡市役所 3階 庁議室		
出席者（委員）	横川会長、大木本副会長、小山委員、谷垣委員、中村委員、松原委員、今井委員、 與田委員、西垣委員、間委員、久保川委員		
（事務局）	堂垣次長、宮本課長、福富参事、山根参事、富岡参事、吉谷主幹、安原係長、 谷垣係長、仲義係長		
欠席者（委員）	神尾委員、大田委員、西村委員、中嶋委員、阪根委員、藤井委員、上崎委員		
会議次第	1	開 会	
	2	会長あいさつ	
	3	議 事	
	(1)	協議事項	
		ア 市民ニーズアンケート調査内容の確認について	資料1～4
		イ 市民ニーズアンケート調査及び第2期豊岡市子ども・子育て 支援事業計画策定スケジュール（案）について	資料5
		ウ 「豊岡市における幼児教育・保育及び放課後児童のあり方」 の諮問、部会の設置等について	資料6
	(2)	報告事項	資料7
		ア 小規模保育事業者の選考結果について	
		イ 待機児童数の状況（H30.10.1現在）	
		（ア）保育所等	
		（イ）放課後児童クラブ	
	4	その他	
	5	閉 会	
配布資料	資料1	アンケート調査実施要領	
	資料2	アンケート設問項目	
	資料3	アンケート調査票（就学前用）	
	資料4	アンケート調査票（小学生用）	
	資料5	策定スケジュール（案）	
	資料6	豊岡市における幼児教育・保育及び放課後児童のあり方の諮問について	
	資料7	小規模保育事業者の選考結果&待機児童数の状況	

議事要旨

1 開会	開会の宣言（事務局）
2 会長あいさつ	会長あいさつ
3 議事	
（1）協議事項	
事務局	ア 市民ニーズアンケート調査内容の確認について・・・資料1～4に沿って説明

- 会長 第1期事業計画策定の事前アンケート調査を実施した際には、国から調査項目の指示があったが、今回も国より、前回と同じ項目を入れるように、あるいは幼稚園の利用希望を聞くように、等の指示があった。加えて、事務局で小学校区の設問を加える等の計画をいただいている。
- 委員 未就学児・小学生各2,000世帯の抽出ということは、未就学児も小学生もいる家庭には両方のアンケートが来る可能性もあるのか。
- 事務局 そのとおりである。
- 委員 この世帯数から言えば、両方のアンケートが来る家も当然あると思う。調査票の宛て名は情報推進課でラベルを作成するようだが、封書の宛て名は誰になるのか。
- 事務局 子どもの名前と、その保護者様、という併記の形になる。
- 委員 保護者様と書いてあるのならよいが、子どもの名前だけでは、アンケートに答えるのが保護者であると伝わりにくい気がしたので、中の説明文にも「お子さんを無作為に2,000人抽出し、『その保護者の方に』ご協力をお願いするものです。」と一言書き加えるなど、配慮をお願いしたい。
- 事務局 承知した。
- 会長 中身の表題に「保護者の皆様へ」と書いてあるし、幼児にアンケートは書けないので見ればわかると思うが、より丁寧にとということをお願いしたい。
- 事務局 少し補足する。資料を事前配付したあと、国から、ニーズをより正しく捉えるための留意点として、何項目かアンケート内容の変更の提案があった。
- 資料3の8頁、「教育・保育の事業」毎に「今利用している状況」、さらに「希望の利用頻度」の欄があり、ここでの将来の利用ニーズが「子ども・子育て支援事業計画」の基礎数値となる。アンケートは「利用したい」という回答が多くなる傾向があり、1回目の調査では特に0歳児の保育ニーズ量が大きくなりすぎたため、今回、国から、0歳から5歳の各年齢段階で「いつ利用したいか」を問える形式にした方が適切なニーズの測定ができるとの意見があった。今0歳の子どもの親が、3歳あるいは4歳から利用したくても、その設問がなく、0歳から利用したい人と同じ「利用したい」という回答になってしまうので、何歳から利用したいかを問えるよう、業者と相談のうえチェックを入れやすい様式に修正したい。
- また、専門用語での事業種別なので保護者に事業内容が分かりにくいいため、事業の一覧表をつけてはどうかという通知がきているが、その場合あちこちを見る必要が生じたりアンケートがいたずらに分厚くなったりするので、一覧を入れるのか、あるいは※印で注意書きを加えるのか、事務局で検討したい。
- 事務局修正案については委員方へ配付して最終確認をとらせていただくが、今、国の通知に基づいて修正を考えているのはその2点である。
- 会長 了解した。前回の調査のとき、軒並み「利用します」という回答で、実際の数字とかけ離れた結果になってしまったことがあり、1点目はよくわかる。
- 事務局 前回調査では、利用料がかかるかどうかの記載がなく、タダなら使いたい、ど

ちらかといえは使いたい、という人もみな「利用したい」と回答されたので、そこも含めて説明書きは要ると思うが、別頁をつけるのなら工夫が必要である。

会長
事務局 いろいろな事業種別についてはどうか。

資料3の9頁、保育の事業の中で、幼稚園・放課後児童クラブ・認定こども園・保育所、等はわかると思うが、例えば「小規模な保育施設」を区別できるほど保護者が理解しているか、豊岡にはないが「家庭的保育」、あるいは「事業所内保育施設」などについての理解はどうか、また「認可外の保育施設」とあるが、「事業所内保育施設」も実は「認可外の保育施設」であり、どこに○を入れるべきか。資料3の14頁、初めての子を持つ保護者に「保育所の一時預かり」等の事業の内容を理解できるのか。一時預かりを利用したいかを問うところで、「ファミリー・サポート・センター」等についての説明が要るのではないか。15頁の「短期入所生活援助事業(ショートステイ)」等の事業内容もわかりにくい。事業の内容、有料かどうか等の一覧があれば、将来のニーズがより適切に出ると考えられる反面、あまり細部に亘るとアンケートが分かりにくくなる。

会長
事務局 書く人が理解できることが大事で、細かい決まり等は要らない気もする。
国からは一覧表をつけてはとされているが、今のところそれは考えていないが、説明書きがある方が良くと思う箇所はいくつかあり、豊岡の人が対象なので、事業について具体的な施設名を書くほうがわかりやすいとも考えている。

委員
事務局 このアンケートは、子どもの年齢は偏りなく抽出されているのか。
結果的にアンケートがそのように集まってデータがとれるかどうかはわからないが、出来る限り偏りなく年齢のバランスがとれる形での無作為の抽出方法をとっている。

委員 これから先5年間の計画を立てるうえで、例えば5歳の子どもは現状では就学前施設を利用しているが次の年は利用しないため、自分の状況とは離れたところでの空想の回答になってしまう。0歳児を持つ家庭ならこれから先5年間について現実的に考えてもらえるが、年齢が上がるにつれて、実態に合わない質問に対しては現実的な回答が出にくいのではないか。決して戸数が多くない中での2,000人であり、小学校就学前の5歳児のいる家庭には、小学校での利用希望を問う方が現実的な回答が出てくると思う。

会長 おっしゃるとおり、就学後の放課後児童クラブ等の利用希望を把握する必要があるので、5歳児だけを対象とした質問も資料3の16頁に入れてあるようだ。

委員 同様に、例えば2歳児には来年度以降の幼稚園の利用希望についての問いが必要では。ただそうなるとアンケートがどんどん複雑になり、決して良い方向ではないと思うが。

会長 難しいところである。母親たちがどこまで考えイメージしているか、初めての子ならそこまでのイメージはできていないかもしれない。

委員 資料3の3頁、用語の定義の「幼稚園」は『3～5歳児に対して学校教育を行う施設』とあるが、豊岡において幼稚園は2年保育であり、アンケートで幼稚園の質問が出たときに、4・5歳児の親は理解しているが、0・1・2歳児の親が3

年保育と混乱する恐れがある。現在は豊岡では4・5歳児の2年保育であるとどこかに加える必要があるのではないか。

事務局 用語の定義として前回からこのように載せているが、言われるように、豊岡のアンケートなので豊岡に合わせた書き方をしてはどうか、とも考えている。

事務局 皆さんの意見で豊岡に合わせたほうが良いということであれば、ここは4・5歳に変えることも可能。

委員 それも含めてのニーズ調査だと思うので、あるかどうかは別として、豊岡では幼稚園は2年保育だが、結果として3歳から幼稚園を利用したいという保護者のニーズが非常に多い場合は、市としては今後、幼稚園を3歳からにするとか、認定こども園の3歳利用を増やしていく等の対応に繋がることにもなると思う。間先生が言われた、豊岡市ではこうだという但し書きは要ると思うし、他の事業も同様に、豊岡市の現状での利用可能な施設や制度は別で記載した上で、それらを取っ払い、もし利用できるならばどういふところを利用したいかの調査をしたほうが、よりわかるのではないか。

事務局 わかりやすくアンケートに答えてもらうには設問もわかりやすくする必要はある。今のアンケートでは例えば豊岡地域在住の人は幼稚園は4・5歳児なので4歳児になったら幼稚園を利用したいというような結果しか出てこないと思うので、今は無い3年保育の幼稚園のことも利用調査として確認すべきとなれば、問いかけの仕方を変えなければいけない。

事務局 そのあたりも含めて検討のうえ、直した部分については連絡させていただく。

事務局 前回の調査は5年前、平成25年の10月だったが、保護者としてアンケートが当たった方はおられるか。実際記入してどうだったか。

委員 私は当たったが、特にわかりにくいこともなく記入させていただいた。

事務局 質問の多い長いアンケートなので、できるだけ短くということもあり、やや説明不足の感もあるが、あまり丁寧に説明しても読むのが嫌になることもある。

会長 量が多いのでバランスが難しい。では、事務局のほうでもう少し考えていただくことでお願いします。

委員 ネットで回答できる方法は考えておられないか。今は国の調査でも、紙媒体でもネット回答でもどちらでも可というのが多いし、QRコード等を記載しておけば可能かという気がする。

事務局 やれないことはないと思うが、このアンケートは、国の基本指針に基づいて全国一律のやり方、概要、クロス集計の方法も全部示されている。よって入札をして業者を決めることができるし、国の示す平準仕様に則って事務を進めているため、ネット回答の発想がなかった。次回までの宿題とさせていただきます。

事務局 全国統一の大きなアンケートであればその方法も採れるが、それぞれの市町村独自でシステムを作るのは難しい。

会長 このアンケートは12月中の実施予定か。

事務局 11月中には発送、12月にかけて実施したいと考えている。

会長 次の作業に遅れが出て困るので、今のようなことを加味してわかりやすく直

していただくことでお願いします。

事務局 できた案を郵送にて委員の皆さまに事前にお示しし、実施の了承のお願いをする形になると思うので、よろしくお願ひしたい。

会長 それでは、事務局の方でいくつかの修正を加えていただくことで、市民ニーズアンケート調査内容については承認ということによいか。異議はないようなので、承認とさせていただきます。

事務局 イ 市民ニーズアンケート調査及び第2期豊岡市子ども・子育て支援事業計画策定スケジュール（案）について・・・資料5に沿って説明

会長 次の計画策定の変わり目の年に当たっており、今回と次回の委員さんは、会議の回数も多くなり大変だと思う。この案のスケジュールでやっていくしかないと思うが、何かご意見は。異議なしということで承認とさせていただきます。

事務局 ウ 「豊岡市における幼児教育・保育及び放課後児童のあり方」の諮問、部会の設置等について

○堂垣教育次長から横川会長に諮問書を提出

会長 市長から本会議に「豊岡市における幼児教育・保育及び放課後児童のあり方について」の諮問があった。これを受けて本会議では市長に対し最終的な答えをしなければならぬ。この会議に諮問されたので、この会議で検討し最終決定をして答申を出すことになるが、答申案の検討にはかなりの回数を要すると思われる。よって、今のような全体会議を何度も開くのは大変なので、部会という形でまず素案検討をして、それを全体会に上げてくる形をとりたい。部会の設置については、子ども・子育て会議条例第6条の規定により、部会に属すべき委員及び部会長は会長が指名することとなっており、については、幼児教育・保育に特に関わりの深い委員の方で集中的に議論を進めながら審議していこうと思う。これについての提案等を事務局から説明させていただきます。

事務局 資料6に沿って説明

会長 「豊岡市における幼児教育・保育及び放課後児童のあり方計画」の策定等について提案させていただいたが、これについてご意見があればお願ひしたい。

委員 第2期の計画策定はどちらかと言うとニーズ量、いわゆる保育の必要量が基になると思うが、このあり方計画に関しては量もさることながら質の面、保育教育内容を見込んでの審議となるのではと思うが。

事務局 そのあたりも踏まえての話になるが、幼児教育保育の基本方針は、今豊岡で作っているスタンダード・カリキュラムで決めていくことになる。そちらも今、委員会を立ち上げて改定のための見直し作業を進めているところで、基本線はそちらで決まり、運営する段階で、子どもの数やいろいろなニーズを見ながら、第1期のあり方計画と同じような議論も出てくると思う。これからの子どもに用意すべき環境を考えるうえで、量の関係は子ども・子育て支援事業計画で決まり、質

の基本方針はスタンダード・カリキュラムで決まる、それをどのように実行するかをあり方計画の中で定めていきたいと考えている。それぞれの計画の中に入れ込むのではなく、やはり市としての大きな基本方針のため、あり方計画という別の計画での政策決定とさせていただく。ただ、重複する内容もあるので、それぞれの事務局や担当者で連携を取りつつ進めていきたい。

委員 計画のベースが3本立てであるだけでなく、量については第2期の支援事業計画策定、質の方はスタンダード・カリキュラムとなれば、このあり方計画はそれらの間に位置するのか、それらのベースになるのか、どういうところにあるのか。

事務局 質の方はスタンダード・カリキュラムで決まり、それに基づいて全て動いていかなないと、ダブルスタンダードになっては困る。子ども・子育て支援事業計画は、かなり大括りなところがあるので、具体的な事業としてはあり方計画で決めて進める、というような記載の方法がこの計画では出てくると思う。支援事業計画はどちらかと言えば、今ある施設の中で子どもたちの受け入れ方がメインの計画であるが、この受け入れ先の変更・再整備も含めてのやり方を決めていくのが、あり方計画。支援事業計画では取りまとめが難しいことや、数を中心に考えた議論ではだめな部分を、別のところで、子どもたちと親たちのことをしっかり考えながら、必要な環境整備、ソフト事業、等の相談をしていきたいと考えている。

会長 この会議で計画を策定する中で、量だけを重要視するのではないが、量のことはこの会議を通してしっかりやるよう国から下りてきている部分で、そちらを優先的に議論をすることにはなる。どういう中身でそれをやるかは、ストレートな協議であればそれぞれの園であり、それを統括するのが教育委員会のスタンダード・カリキュラムであろう。そういう議論はこの会議でも当然できるが、子育てに関わる守備範囲は非常に広く、それをこの会議で全部やるのは大変だ、というのがひとつある。そこで、幼児教育・保育と放課後児童のあり方、そのあたりに特化して議論を深めて計画を作るのが、このあり方計画だと私は理解している。

先ほどより説明のとおり、部会を設置して少しでもよい議論をしていきたいが、進んでみないとわからないし、今回のニーズ調査も業者の具体案がまだなので、先が見えない部分もある。

部会を非公開にすることについては、よろしいか。公開が原則ではあるが、いろいろな議論ができるように非公開とさせていただきたい。部会のメンバーについても私が指名した形になるが、どうかよろしくお願ひしたい。

では、承認いただいたということで、これで協議事項については終わることとし、報告事項に移る。

(2) 報告事項

事務局 ア 小規模保育事業者の選考結果について・・資料7に沿って説明

イ 待機児童数の状況（H30.10.1現在）・・ //

事務局 ご覧のとおり10月1日現在で45人の待機児童が発生している。最大定員が19人という小規模保育所の整備では待機児童の解消は困難ではあるが、少しでも解消

を図るための現実的な対応策ということで行っている。来年度も小規模保育所1施設の整備を図る検討を行っており、正式に決まればこの会議でお諮りする。放課後児童クラブの待機者についても、今年度は幸い10月1日現在いないが、年々利用希望者が増加しており、支援員の確保等で引き続き出来得る対策を講じていくので、ご理解をお願いする。

委員 放課後児童クラブの待機者は現在ゼロだが、今が申請の時期で、聞くところでは父方の祖父母・母方の祖父母についても就労状況を記載するようだが、それは参考までのものか、具体的な審査の対象として中身を見られるものなのか。

事務局 申込みの段階で添付書類として就労証明書が必要なのは父母の分のみで、祖父母については証明書は不要だが、申立書という形で状況を聞かせていただく。

委員 なぜ必要か、どういう影響があるのか、と心配している人もいるが、あくまでも参考ということか。

事務局 去年までは、申請期限の11月30日までに申込みされた方は、全員の受け入れができていた。ただ、年々利用希望者が増加しており、もし保育所と同様に審査や状況判断が必要になれば、情報として判断基準に使わせてもらうかも知れない。

事務局 放課後児童クラブは放課後留守家庭の子どもを預かる制度であり、父母の就労状況に加え、祖父母の様子、子どもを見てもらえる方がいるかどうかの状況を見させてもらう。

事務局 あくまで対象は留守家庭であり、祖父母も家庭での保育ができないという状況の申立書である。証明までは求めないが、家庭では子どもを見るのができないことを本人に申し立てていただくための書類である。

会長 とりあえず今は放課後児童クラブの待機者はゼロということで、良かった。

事務局 毎年、夏休みの長期休暇に希望が多いが、豊岡市のあり方として夏休みだけの受け入れはしていないので、申込みは最初からしてもらい、夏休みが終われば退所されて空きができるという状況がある。

事務局 それも今年度は退所される方の数が減っており、年間を通して利用している方が多い。高学年になると夏休みが終わったあとは子どもたちは自宅で、という例もこれまで多かったが、夏休みが終わっても放課後児童クラブを利用する子どもが増えている。その中でも今年度は全ての受け入れができていた状況。

会長 利用者の実数自体は増えているのか。

事務局 今年は増えている。

事務局 保育所等の待機児童45人の地区別の人数はわかるか。

事務局 豊岡市は旧市町単位でいうと6地域あるが、45人中42人が旧豊岡地域である。

事務局 0・1・2歳児がほとんどである。

事務局 詳しくは、0歳児20人中19人が豊岡地域、1歳児14人中13人が豊岡地域、2歳児9人中8人が豊岡地域、3・4歳児各1人も豊岡地域で、これで42名。残りの3人は、0歳児の1人が出石、1歳児の1人が日高、2歳児の1人が出石である。

委員 これは市への申込み分だと思うが、認定こども園だと、園の窓口でお断りしている場合もかなりあり、年度途中の入所をお断りしていることも各園あるので、

市へ申込みする段階に至っていないだけで、実数はもっと多いと思う。

会長 表を見る限り0歳児が特に増えており、今後アンケート調査の結果も踏まえて見ていくことになるが、低年齢児のニーズが増えているのでそこを少しでも何とか対応しようという市の方針はよくわかる。なかなか厳しいものがある。

次長 低年齢児になると保育士の数が多く必要で、その部分をクリアできなくて預かれないこともある。各園では、定員を超えて預かってもらうなど、本当に努力いただいているが、低年齢児は例えば0歳児は3人に1人の保育士が要するため、そこが難しくてもどうしても預かれない状況があり、そこが一番の課題である。

会長 保育士をどう確保するか、市としての工夫をしていかないとしんどいというのはこれまでも話題に出ていることである。

次長 計画の策定とともに、保育士確保対策事業も今年と来年で実施しており、3つの計画及び1つの事業という形で並行して行っている。皆さまにもいろいろとご意見をいただきたい。

4 その他

会長 ここまでの全体を通して、何かご意見・ご提案はないか。

事務局 それぞれの地域あるいは関係される分野で課題だと思われることがあれば、せっかくの機会なので、是非率直なご意見を聞かせていただきたい。

会長 いつもは議論していただく時間が足りないが、珍しく少し時間の余裕があるので、実際の子育てで気づいたことなど声を上げてもらいたい。今日は言うだけでなくてよく、ご意見を今後に生かしていければと思う。

委員 私には今3歳の子どもがいる。豊岡では幼稚園は2年保育だが、他の地域では、私は神戸市出身だが3年保育が主流だと思う。豊岡も3年保育に移行する考えはないのか。子どもが3歳になり昼寝もしなくなると、遊ぶところも少なく一日見るのは大変だという声を周りでもよく聞く。だから3年保育のこども園に集中するし、私も応募したが、書類を出すにも父親が朝から並ぶような状況。母親が働いていないと保育園には入れず教育認定にしか入れない、3年保育のこども園は3つしかなく、1つは城崎で豊岡から通うのは難しいので、みえかこうのとりかの二択になってしまう。幼稚園がなくなるのも困るので、幼稚園が3年保育になったらいいいつも思う。なぜ3年保育のところとそうでないところの差があるのか疑問に思う。

事務局 もともとは小学校に上がる前の1年間、地域の子どもたちとの集団生活に慣れながら入学してもらおうということから幼稚園が始まってきた。前回のあり方計画の中で、状況からみて幼稚園も1年でなく2年にしようということで2年教育が始まった。そしてスタンダード・カリキュラムも作られ、この時期の子どもにはこういう育ちを目指して、という形で進んできた。あくまで教育委員会であり、子どもの視点から言うと幼稚園の3年教育が必要なのか今の2年でいいのかは、スタンダード・カリキュラムや今度のあり方計画で審議が出てくると思う。地域に子どもの数が少なく、子ども同士で遊ばせる時間を増やしたいと親が3年教育を希望するのはよくわかるし、すぐには難しいが、検討していかなければならない間

題である。言われるように3年保育をしている園としていない園があり、地域によって公平感がないということは十分認識している。

委員 豊岡は3年保育の園があるからまだいいが、他の地域だと豊岡まで通うのは難しいということもある。それと、中学校から英語の授業がオールイングリッシュになるという話を聞いたが、そのためにはかなり早い段階から英語の教育をしないと到底不可能ではないかと、英語の教員免許を持つ身として感じる。こども園の中には3歳から英語教育をしている園もあると聞き、その差は大きいと思うので、自分の子をこども園に入れたい気持ちがある。文科省の案だと思うが、2020年五輪を機に英語を話せる人を増やすという目標でやっているのだから、英語も含め小さい時からの教育は早くに始めたほうがいいのかと親としては感じている。

次長 授業がオールイングリッシュになるかどうかはわからないが、今ちょうど移行期間で教育要領が変わっていく中で、豊岡市ではそれに先行して保育園や認定こども園で、英語を好きになり英語に親しんでもらうために英語遊び事業を行っている。これは教育認定かどうかは関係なく4・5歳児を対象に実施している。

事務局 私立園の中には独自に3歳から取り組んでいる園もあるが、市では現在、全ての保育園・認定こども園・幼稚園において4歳児5歳児を対象に、遊びを通して英語に親しんでもらう英語遊びの取り組みをしている。

次長 また、間が空かないように、教育要領にはないが豊岡市では小学校の1・2年生に対してもALTを配置して英語遊びを実施しており、段階的に教育要領に則った段階に繋げて、最終的にはオールイングリッシュにできるような子どもになればと考えるつつ移行措置をとっている。できるだけどこにいても同じ状況ができるようにとは考えている。

会長 少なくとも豊岡市の中では地域差が少ないことが望ましい。他にご意見は。

委員 私には子どもが3人いて、小学校2年生、幼稚園5歳児、下は保育園の2歳児。放課後児童クラブを利用して仕事をしているが、豊岡市では、夏休み・冬休みだけの受け入れはしていないので、夏休み・冬休みのためだけに普段から利用している人が多い。私も、子どもが帰ってくる前に仕事が終わるので、普段は放課後児童クラブを利用する必要はないが、夏休み・冬休みはどうしても利用しなければいけないので、通年利用している。豊岡第2クラブを利用しているが、おそらく定員オーバーの状況なので、夏休み・冬休みだけの利用ができれば普段はもう少し余裕ができるのではないかと思います。

会長 そのような人が多いとのことで、何か良い方法を考えてもらえればと思う。

事務局 大きな課題は支援員の数不足だが、言われることはよくわかるので検討の余地があると考えている。

事務局 通常は午後2時から6時半までで、その間は支援員を配置するが、夏休みはそれが朝から夜までになるため、スタッフが足りない。現状でも、夏休みには支援員・補助員・アルバイトも含め募集をかけて人員確保に努めているが、なかなか集まらず厳しい状況。夏休みだけの利用を認めた時に、現状の平日の人数が減るだけならばよいが、夏休みの希望者が増え過ぎて断らなければならない状況にな

るのではないかと思う。

会長 夏休みだけの募集をしている市もあるにはあるが、もちろんニーズが増えるから人も余計に要るのだろう。

事務局 例えば、午前中のパート勤務の方や専業主婦の方に、放課後児童クラブの補助員として手伝ってほしいと呼びかけて、来てもらえる可能性はあるだろうか。

委員 その支援員というのは、何か資格が必要か。

事務局 支援員は、保育士資格または小学校教員免許のある人に研修を受けてもらい資格を取っていただく。補助員は資格は必要ない。勤めを希望する人は通年で勤めたい方が多く、夏休みの2か月間だけ人を増やすのが難しい状況である。

次長 逆に、夏休みは子どもがいるので家にいたい母親が多く、うまくいかない。

事務局 市の方でも、学校で勤務しておられる介助員の方に、夏休期間中は放課後児童クラブに助けに来てもらって補っている状況もある。

今後に向けて検討したい。貴重なご意見をいただいた。

会長 市の方の実情も大変よくわかる。他にご意見は。

委員 私は但東町に住んでおり、人数も少なく下の子の同級生は6人。今話を伺って、豊岡市内の方はいろいろ大変だと思った。それに比べ但東町は人数が少ないこともありとても子育てしやすいと感じるので、ぜひ但東町へ、という思いである。

会長 逆の大変さはないか。

委員 夜は真っ暗で、高校生の上の子も夜に遊びに出ることもできず、親として安心。

次長 もう少し大きな集団の中に子どもを入れたいという思いはあるか。

委員 うちが3年ほど前に別の地域から但東町に戻ってきた。以前の学校はとても大きく、もちろん大きいところの良い面もあったが、うちの子には少人数が合っていたので、よかったと思っている。

会長 地域差によるニーズの問題なども今後の議論に入ってくると思う。

先ほどの幼稚園の2年保育3年保育について、神戸市は3年保育と言われたが、神戸市も基本は豊岡と同じ。兵庫県は歴史的にも幼稚園が多く、小学校の横に幼稚園を計画的に作った県で、当初はみな1年保育でのスタート。ただ、3歳から集団の中で生活するのは教育的な効果が十分あり、3歳から幼稚園に入ること自体は子どもにとって良い影響があると国は考えている。神戸市も豊岡市も基本は1年だったが、そのあと、まだ子どもがある程度増えていった時期に、国の幼児教育推進の動きもあり、公立幼稚園が2年になっていった。そして、3年にしようと言いだした頃には子どもがどんどん減ってきて、今のような状態になっている。私立幼稚園はわりと早くから3年保育をしていて、公立はほとんどがずっと2年保育で動いてきているが、逆に今度は保育所のニーズが高くなったり地域の子どもの数が減ってきたりして、神戸市の例だと私立幼稚園がバスをぐるぐる回して、近くに住んでいなくても迎えのバスに乗せるだけ、という状況になっている。本当にそれでいいのかと思うが、そのように私立幼稚園に地域の子どもを取られて地元の幼稚園に行く子がいないところも多く、神戸ではかなりの数の幼稚園がつぶされ、再編計画で廃園が決定している園もいくつもある。公立

幼稚園は、神戸でも一つ二つが3年保育をしているだけで、県内は2年がほとんどであり、豊岡市の2年保育は普通の事情である。

ただ、3歳から幼稚園に入れるのは良いことだと私は考えていて、やはりそういう生活をするのは、子どもの発達にとって意味のあることだと思う。では何が問題かという、母親が働いていれば保育所には3歳から入れるのに、働いていないと入るところがないのが、まずいのだろうと思う。そこはそれぞれの市の計画があり、幼稚園は3歳からとはなかなか動けないし、それよりも保育ニーズへの対応が手一杯で、むしろ幼稚園をつぶして保育園にするような方向に動いている市町村が圧倒的に多い。そんな中で豊岡はまだ公立の幼稚園がしっかりある。公立園がどんどんなくなる市もあり、それもどうかと思う。

神戸市が3年保育という印象は、私立幼稚園の多くが3年保育をしているためである。

会長 それでは、最後に、大木本副会長から、閉会のごあいさつをいただく。

5 閉会

閉会の宣言（副会長）

本日もたくさんのご意見ありがとうございました。今は保育・教育が変わっていく過渡期で、量の面・質の面、多方面からの見直しをする中、人材確保の部分も豊岡市の事業としてスタンダード・カリキュラムで予算化されているが、豊岡市の根本となる保育について皆が共通した認識を持てるようにと、スタンダード・カリキュラムの策定にも携わっている。今度のアンケートによる市民の皆さんの声を基に、どういう方向性をもって進めていくべきか、皆さんで話し合っ方向性を見出していきたいと思うので、よろしくお願ひしたい。

それと、保育園側の立場での意見だが、我々もこども園になりたい気持ちはあるが、いろいろな条件、面積のことなどもあり、なかなか移行が難しいところもある。幼児教育、3年保育は大切であるが、保育所入所の場合、育休のときに3歳児は退所しないといけない。豊岡市では、4・5歳児は特例措置で育休に入っても保育園に残れるが、わずかな出産の時期の違いで3歳児は残れない、という事案でよく相談を受ける。実際にうちの園でも育休に入った人のお子さんが退所された。そして4歳児の秋に復職予定だが、4歳児の4月から秋までは幼稚園に行く予定で、子どもにとって環境が変わるのはあまり良くないが、幼稚園のままでは働けないので、復職の時には保育所に転園しないといけない。そのあたりの措置について今後検討していただけたら、と思う。やはり子どもたちのことを中心に考えながら、子どもたちが健やかに育ち、この豊岡が親にとっても子育てしやすい地になるよう願うので、小さいことでもひとつずつ改革できればと思う。

細かいことを申しあげたが、今後ともどうか皆さまよろしくお願ひします。